

美と遊ぶ



bi to asabu

生き物のような原色の都市

トム・クリストファー展

都会というと、何を思いだすだろう。高いビル群、行き交う人、自動車の波。ときに色鮮やかなパラダイスで、ときにモノクロームな砂漠……。

そうした都会の表情を描き出す米国の画家、トム・クリストファーの最新作を含む約30点を集めた展示が、大阪市中央区のホテルニューオータニ大阪1階にあるギャラリーためなが大阪で行われている。

彼の作品の特徴は鮮やかな色彩。強い原色を使った画面は、まるで都市が生き物のように感じられるのである。加えて、人が、車が、あるいは影が、雲が動いてゆく。



Tom Christopher 「Lime Green Modified near Grand Central」(91×122cm)

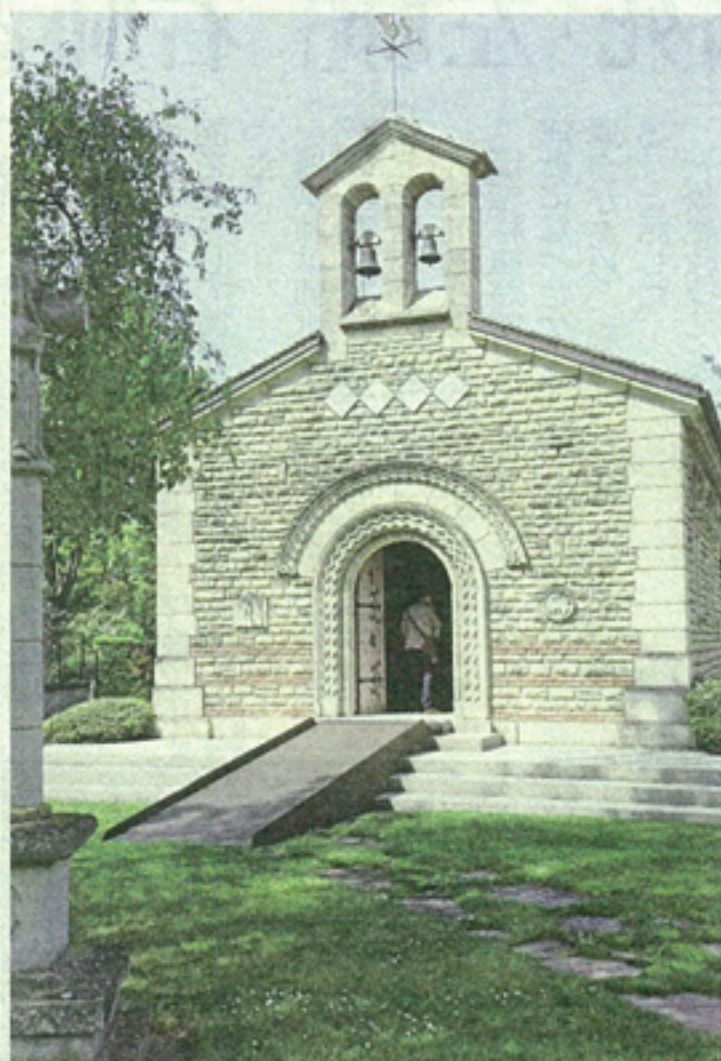
移ろいゆく都市の風景が、いきいきと切り取られている。

1952年生まれ。ニューヨークのロックフェラーセンターやタイムズ・スクエアの壁画を制作したことで知られるクリストファーの、あぶらの乗った作品群が楽しめる。13日まで。

後期
復元CG



□特別展 大
キーワードー、
市中央区の大阪
・6946・5
宮第1次発掘調
では、奈良時代
の難波宮が世に
450点の資料
□青春の熱き
(月・火曜、第
野画廊075
ら昭和初期、且
りなどで学び、
「赤い帽子の女
忠二」ヴェニス
で生氣あふれる



フジタ礼拝堂＝フランス・ランス



藤田嗣治「眠れる女」公益財団法人平野政吉美

川村甚吉の

たまし